

吉野川流域へのコウノトリ・ツル類の飛来・生息状況と関連する取組について

1. 吉野川流域へのコウノトリ・ツル類の飛来・生息状況

(1) コウノトリ

■2019年の飛来・生息状況

- ・ 鳴門市大麻町板東で営巣する「鳴門板東ペア」により、2019年2月23日に抱卵が始まり、**2019年6月には3羽が巣立ち**ました。「鳴門板東ペア」による同地での**繁殖の成功は2019年で3年連続**になります。
※2019年に巣立った雛には鳴門市大麻中学校の生徒により、「藍」（あい）、「令」（れい）、「和」（かず）の愛称がつけられました。
- ・ 吉野川流域ではコウノトリは主に鳴門市大麻町・大津町、松茂町中喜来で観察され、徳島市や北島町、藍住町等への飛来も確認されています。
- ・ 2019年10月6日には、**鳴門市周辺で最大31羽が確認**されています。
※現在（2019年12月6日時点）、日本のコウノトリの野外個体数は178羽であるため、野外個体の約1/6もの個体が鳴門市周辺で確認されたこととなります。
- ・ 鳴門市大麻町で2019年10月22日～23日にかけてコウノトリ2羽の死亡が確認されています。
※10月22日に死亡した個体（2019年5月に兵庫県豊岡市で生まれた雄の個体）は送電線に衝突し落下したことが原因です。10月23日に死亡した個体（2018年4月に兵庫県豊岡市で生まれた雌の個体）は死因不明で用水路で死亡していたのが確認されています。

[参考] 2018年の飛来・生息状況

- ・ 「鳴門板東ペア」により、2018年2月6日に抱卵が始まり、2018年5月には2羽が巣立ちました。
- ・ 2018年10月には鳴門市周辺で最大24羽のコウノトリが確認されています。
- ・ 死亡・怪我等について、鳴門市で2羽の死亡と1羽の負傷個体が確認されています。
※「あさ」（2017年3月に鳴門市大麻町で生まれた雌の個体）が、体に強い衝撃を受けたことによる出血性ショックで2018年2月7日に死亡。2018年11月には大麻町で両脚が骨折した雄の個体が発見され11月15日に死亡。2018年11月23日には右脚を骨折している雌の個体が発見されています。

(2) ナベヅル

■2019年度の飛来・生息状況

- ・ 2019年11月6日に吉野川右岸6k400付近でナベヅル1羽が確認されています。

[参考] 2018年度の飛来・生息状況

- ・ 2018年10月に吉野川の河口の干潟でナベヅル7羽が確認されています。
- ・ 2018年11月に鳴門市大麻町のハス田周辺に3羽のナベヅルが飛来し、コウノトリと一緒にいるところが観察されています。
※コウノトリとナベヅルと一緒に見られるのは稀な事例です。
- ・ 2019年1～2月に阿波市でナベヅル1羽の飛来が確認されています。



2019年の子育ての様子（鳴門市大麻町）
写真提供：コウノトリ定着推進連絡協議会



2019年の子育ての様子（鳴門市大麻町）
写真提供：コウノトリ定着推進連絡協議会



2019年に巣立った幼鳥3羽（鳴門市大麻町）
写真提供：コウノトリ定着推進連絡協議会



整備されたビオトープでの採食の様子（鳴門市大麻町）
写真提供：コウノトリ定着推進連絡協議会



群れで採食するコウノトリ（鳴門市大津町）
写真提供：コウノトリ定着推進連絡協議会



群れでねぐら入りするコウノトリ（北島町）
写真提供：コウノトリ定着推進連絡協議会

2.関連する取組

(1) 生息環境づくりに関する取組

1) コウノトリの採食地の保全・創出

■河川

・「吉野川流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク推進協議会」に設置された「鳴門地区生息環境づくりワーキング」で、旧吉野川を対象に、治水事業と合わせた自然再生（コウノトリの採食環境にも資する湿地の再生）の検討が進められています。

【取組主体：吉野川流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク推進協議会】

⇒「鳴門地区生息環境づくりワーキング」については資料2を参照

■農地、休耕地

・鳴門市大麻町のコウノトリの営巣地付近でビオトープが整備され、維持管理活動が継続して行われています。【取組主体：コウノトリ定着推進連絡協議会、NPO 法人とくしまコウノトリ基金】

・農薬や化学肥料の使用量を減らした、れんこん栽培が行われています。【取組主体：地域の農業者】

・徳島県の「多面的機能支払の実施に関する基本方針（要綱基本方針）」の「多面的機能の増進を図る活動」の取組内容に、「活動組織間で連携し大型の鳥類（ツル・コウノトリ）を保護する取り組み」が加えられました。今後、農業者等の組織する団体が、大型の鳥類（ツル・コウノトリ）を保護する活動に取り組む場合に、支援を受けられるようになります。【取組主体：農林水産省、徳島県、各市町】

※多面的機能支払交付金：農業・農村の多面的機能の維持・発揮を図るために、地域共同で行う農地・農業用水等の地域資源の保全や農村環境の良好な保全に資する活動を支援しています。交付金は、国から徳島県、徳島県から各市町に交付され、農業者等の組織する団体には各市町から交付されます。



営巣地付近に整備されているビオトープ
写真提供：コウノトリ定着推進連絡協議会



営巣地付近に整備されているビオトープ

2) コウノトリの巣やねぐらの保全・創出

・「鳴門板東ペア」の巣がある電柱に送電がされないよう、四国電力により、仮設電線工事が施されています。【取組主体：四国電力】

・コウノトリの繁殖用の人工巣塔が、徳島県とコウノトリ定着推進連絡協議会により、2018年3月28日に鳴門市大津町へ設置されています。【取組主体：徳島県、コウノトリ定着推進連絡協議会】



仮設電線工事により送電がされていない
「鳴門板東ペア」の巣がある電柱



コウノトリの人工巣塔

3) コウノトリへの人による悪影響の緩和

・コウノトリの観覧マナーを啓発する看板の設置、コウノトリの営巣期間中の警備員の配置、来訪者用の駐車場の設置等が継続して行われています。【取組主体：コウノトリ定着推進連絡協議会、鳴門市】

・コウノトリの観察スペースの設置が、鳴門市により、継続して行われています。【取組主体：鳴門市】

・コウノトリの営巣地周辺490haを「鳴門コウノトリ（希少鳥獣生息地）鳥獣保護区」として、徳島県が2015年11月に指定しています。



マナー啓発や駐車場の案内看板



コウノトリの観察スペース

(2) 地域・人づくりに関する取組

1) 農業振興

■「コウノトリおもてなしれんこん」の認証

・徳島県のエコファーマー認定を取得し、コウノトリの餌場確保等につながる取組を行って生産されたレンコンを「コウノトリおもてなしれんこん」として、鳴門市が認証（鳴門市コウノトリブランド認証制度）しています。

【取組主体：鳴門市】

※鳴門市コウノトリブランド認証制度：自然環境に配慮した農法で栽培した農産物やその加工品を、鳴門市コウノトリブランドとして鳴門市が認証するもの。「コウノトリおもてなしれんこん」は認証制度の第1号となる農産物。



出典：鳴門市ウェブサイト

■「コウノトリおもてなしれんこん」の紹介ちらしの作成

・「コウノトリおもてなしれんこん」の販路拡大を目的として、2019年6月21日に開催された「コウノトリ育む鳴門の人、環境、農業にふれるコウノトリ生息環境の現場学習会」での意見を受け、吉野川流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク推進協議会とJA徳島北が、「コウノトリおもてなしれんこん」の生産の経緯等を、ストーリー性を持たせて紹介するチラシを作成しました。

【取組主体：吉野川流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク推進協議会、JA徳島北】



「コウノトリおもてなしれんこん」の紹介チラシ

■「コウノトリおもてなしれんこん」の加工品の販売

・JA徳島北が「コウノトリおもてなしれんこん」の加工品の「れんこん葉茶」を販売しています。また、JA徳島北と全農の通販サイト「JAタウン」が「れんこん葉茶」の通販に取り組んでいます。

【取組主体：JA徳島北】



「れんこん葉茶」の販売

JA 大津松茂の農産物直売所「えがお」にて



「れんこん葉茶」の販売

徳島阿波おどり空港にて

■農林水産省の「消費者の部屋」での展示

・コウノトリ定着推進連絡協議会が、農林水産省（東京都千代田区霞が関）の「消費者の部屋」での特別展示「～いきものを大切に！～パートナーシップでつながる生物多様性保全の取組～」（2019年5月20～24日開催）に参加し、「コウノトリおもてなしれんこん」のパネルや加工品3種の展示を行いました。【取組主体：コウノトリ定着推進連絡協議会】



パネルでの紹介

出典：「コウノトリ定着推進連絡協議会」ウェブサイト



加工品の展示

出典：「コウノトリ定着推進連絡協議会」ウェブサイト

■地方銀行フードセレクションへの出展

・2019年9月19～20日に東京ビックサイトで開催された、「地方銀行フードセレクション」において、(株)阿波銀行の取引先である鳴門市のブースにJA徳島北が出展し、「コウノトリおもてなしれんこん」とその加工品の商談が行われました。

【取組主体：JA徳島北、コウノトリ定着推進連絡協議会、鳴門市、(株)阿波銀行】



「地方銀行フードセレクション」への出展



「地方銀行フードセレクション」への出展

2) 観光振興

■コウノトリを活かしたエコツアーの商品化

- 「吉野川流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク推進協議会」に設置された、「鳴門地区地域・人づくりワーキング」で、コウノトリやハス田等を地域資源として活用する方策の検討が進められ、2019年12月1日にモニターツアー「鳴門コウノトリれんこん教室」が試行されました。

【取組主体：吉野川流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク推進協議会】

⇒「鳴門地区地域・人づくりワーキング」については資料3、「鳴門コウノトリれんこん教室」については資料4を参照

- (一社) 鳴門市うずしお観光協会が、コウノトリを活かしたツアーとして、「お遍路体験とコウノトリ見学」を企画・販売しています(※ツアーのガイドは「なると観光ボランティアガイド会」が対応)。

【取組主体：(一社) 鳴門市うずしお観光協会、なると観光ボランティアガイド会】

3. お遍路体験とコウノトリ見学 おすすめ

旅行代金 1,500円 まち歩き
お一人様料金 昼食なし、大人・小人同額

■ 歩行距離：約3km
■ 所要時間：約3.5時間 (概ね平坦です。)

JR 鳴門駅 9:15 集合
路線バス
一番札所 霊山寺
ばんごう 鳴門前通り
コウノトリ見学
JR 板東駅 12:21
JR 池谷駅 12:23着/12:42発
JR 鳴門駅 12:59

JR鳴門駅から路線バスを利用し、四国八十八ヶ所霊場一番札所「霊山寺」へ、霊山寺で「福」を授かったあと、「幸せ」を運ぶ鳥「コウノトリ」の生息場所へ。保護観察区域外(生息場所から400m)から観察します。「幸」と「福」を求める癒しの旅をお楽しみいただけます。

(※1) 自然生息しているため、必ずコウノトリを観察できるわけではありません。(※2) 双眼鏡等は各自でご持参ください。

「お遍路体験とコウノトリ見学」のツアー内容

出典：パンフレット「鳴門郷旅」

■観光パンフなどへの利用

- 鳴門市の観光ガイドブックに、コウノトリが紹介されています。【取組主体：鳴門市】
- 板東地区自治振興会が、板東地区を紹介する「BANDO てくてく MAP」にコウノトリの観察ポイントを紹介しています。【取組主体：板東地区自治振興会】

3) 活動資金等の調達

- NPO 法人とくしまコウノトリ基金が、企業・個人から会費や寄付金等で支援を受けています。

【取組主体：企業、個人、NPO 法人とくしまコウノトリ基金】

- 商品やサービスの売上金の一部が、NPO 法人とくしまコウノトリ基金に寄付され、コウノトリの野生復帰を進める仕組みが始まっています。商品やチラシなどに「コウノトリを応援しています」というロゴマークが表示されます。寄付をいただいている商品として、「コウノトリおもてなしれんこん」と「はばたき」(れんこん用有機質肥料/開発・販売：有限会社丸喜商店)が、NPO 法人とくしまコウノトリ基金のウェブサイトで紹介されています。

【取組主体：企業、NPO 法人とくしまコウノトリ基金】



寄付をいただく商品用のロゴマーク

出典：「NPO 法人とくしまコウノトリ基金」ウェブサイト



「はばたき」のパンフレット

出典：「NPO 法人とくしまコウノトリ基金」ウェブサイト

- (一財) 日亜ふるさと振興財団の2019年の助成事業として、コウノトリ定着推進連絡協議会の「コウノトリ定着拡大に向けた自然環境の保全活動」が採択されています。また、2020年の助成事業として、NPO 法人とくしまコウノトリ基金の「コウノトリの繁殖個体群形成に向けた餌場環境の創出活動」が採択されています。

【取組主体：(一財) 日亜ふるさと振興財団、コウノトリ定着推進連絡協議会、NPO 法人とくしまコウノトリ基金】

- (株) トヨタ自動車の「トヨタ環境活動助成プログラム」の2019年度の助成対象プロジェクトとして、NPO 法人とくしまコウノトリ基金の「四国における特別天然記念物コウノトリの野生復帰活動」が採択されています。

【取組主体：(株) トヨタ自動車、NPO とくしまコウノトリ基金】

- 環境省の「地域循環共生圏づくりプラットフォームの構築に向けた地域循環共生圏の創造に取り組む活動団体」として、コウノトリ定着推進連絡協議会が採択されており、「地域の総合的な取組となる経済合理性と持続可能性を有する構想策定及びその構想を踏まえた事業計画の策定」、「地域の核となるステークホルダーの組織化」等の環境整備の取組について支援が行われています。

【取組主体：環境省、コウノトリ定着推進連絡協議会】

※地域循環共生圏：各地域が美しい自然景観等の地域資源を最大限活用しながら自立・分散型の社会を形成しつつ、地域の特性に応じて資源を補完し支え合うことにより、地域の活力が最大限に発揮されることを目指す考え方です。

4) 理解と関心の向上

■「吉野川流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク推進協議会」のキャッチコピーの公募

・吉野川流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク推進協議会が、協議会の目的を端的に表現できるキャッチコピーを公募（期間：2019年2月13日～3月12日）し、応募のあった19作品について協議会で審査した結果、鳴門市在住の天野大さんが応募された「ツル・コウノトリと未来育む阿波の国」が採用されました。2019年5月16日に選定表彰式が行われました。

【取組主体：吉野川流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク推進協議会】



キャッチコピー募集のちらし



キャッチコピーの選定表彰式

■「江崎保男博士「山階芳麿賞」受賞記念シンポジウム」の開催

・コウノトリ定着推進連絡協議会のアドバイザーである江崎保男博士が、「山階芳麿賞」を受賞されたことを記念して、2019年3月14日に「江崎保男博士「山階芳麿賞」受賞記念シンポジウム～コウノトリが舞う地域づくり～」が開催されました。シンポジウムでは、江崎先生からの基調講演とともに、コウノトリを活かした地域づくりについてパネルディスカッションが行われました。また、会場ではコウノトリに関するパネルの展示や、レンコンを使った商品の試食等も行われ、多くの方が参加されました。

【取組主体：コウノトリ定着推進連絡協議会、吉野川流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク推進協議会】



シンポジウムのちらし



江崎保男博士「山階芳麿賞」受賞記念シンポジウム



江崎保男博士「山階芳麿賞」受賞記念シンポジウム



江崎保男博士「山階芳麿賞」受賞記念シンポジウム
出典：「コウノトリ定着推進連絡協議会」ウェブサイト

■「コウノトリ育む鳴門の人、環境、農業にふれるコウノトリ生息環境の現場学習会」の開催

・コウノトリやコウノトリがくらす自然環境を活用した、農業振興・観光振興について、地域の営農者や農業組合、観光事業者や金融機関、行政、大学等、多様な主体が参加して意見交換を行う現場学習会が2019年6月21日に開催されました。



現場での学習



意見交換

＜参加者からの主な意見＞

- 「コウノトリおもてなしれんこん」の付加価値（生産された経緯）を明確化し、ストーリー化を図ることで販路拡大につながるのではないか。
- 「コウノトリおもてなしれんこん」の付加価値については、ウェブ上の情報も少ないためホームページで発信してはどうか。
- ビジネスマッチングを活用することで販路拡大につなげていきたい。
- ツアーに関しては知識のあるガイドが説明することで、十分満足度を得られるのではないか。
- ツアーに関して、不適格業者防止のため、認証制度を設けるべきではないか。

■環境教育・啓発イベントの開催

・環境教育や啓発を目的とした各種イベントが、コウノトリ定着推進連絡協議会、NPO 法人とくしまコウノトリ基金により、開催されています。

「第5回コウノトリ親子観察会」(2019年5月26日開催)、「トンボの調査&観察会」(2019年10月20日開催)、「レンコン畑でコウノトリ観察ウォーク」(2019年11月23日開催)、「コウノトリ巣作り体験ワークショップ」(2019年12月15日開催、とくしま動物園北島建設の森との共催)

【取組主体：コウノトリ定着推進連絡協議会、NPO 法人とくしまコウノトリ基金】



「トンボの調査&観察会」の様子
写真提供：NPO 法人とくしまコウノトリ基金



「コウノトリ巣作り体験ワークショップ」の様子
写真提供：NPO 法人とくしまコウノトリ基金

■コウノトリの雛への足環装着

・2019年に鳴門市で育てていた3羽のコウノトリの雛への足環装着が、「コウノトリ足環装着プロジェクトチーム」により、2019年5月9日に実施されました。

【取組主体：コウノトリ足環装着プロジェクトチーム(徳島県、コウノトリ定着推進連絡協議会、とくしま動物園、四国電力等で構成)】

※兵庫県豊岡市で放鳥されているコウノトリと、日本国内の野外で巣立ちしたコウノトリには、個体番号が書かれた足環と、異なる組み合わせの色の足環が、それぞれの個体につけられています。足環によって個体の識別ができるようになり、個体の移動や生死等を詳しく調べることができます。



四国電力の高所作業車での作業
出典：コウノトリ定着推進連絡協議会ウェブサイト



足環の装着
出典：コウノトリ定着推進連絡協議会ウェブサイト

■コウノトリの写真展の開催

・コウノトリの写真展が、地域のカメラマンにより、開催されています。

「コウノトリに魅せられて 板東よしお写真展」(2019年6月26日～7月7日開催)、「コウノトリ観察記録の展示」(2019年8月6日～8月14日開催)

【取組主体：地域のカメラマン】



「コウノトリ観察記録の展示」

■コウノトリ「あさ」の剥製の展示

・徳島県立博物館の企画展で、コウノトリの「あさ」の剥製の展示が行われました。

「とくしまの恐竜時代」(2019年7月19日～9月8日開催)、「とくしまタイムトラベラー過去・現在・未来」(2019年10月5日～11月10日開催)

【取組主体：徳島県立博物館】

※コウノトリの「あさ」は、2017年3月に鳴門市で生まれ、2018年2月に鳴門市で死亡した個体



徳島県立博物館でのコウノトリの剥製展示
企画展「とくしまの恐竜時代」にて

■情報発信

・四国放送やNHKがコウノトリ関連の内容を放送するとともに、徳島新聞がコウノトリに関連する記事を掲載しています。また、コウノトリ定着推進連絡協議会やNPO 法人とくしまコウノトリ基金が、ウェブサイト上でコウノトリの飛来情報や関連する取組、イベント等についての情報を発信しています。

【取組主体：四国放送、NHK、徳島新聞、コウノトリ定着推進連絡協議会、NPO 法人とくしまコウノトリ基金】